

# 2023年5月16日掲載 輸送経済新聞

## 攻めの倉庫営業へ

### 第一貨物 24年問題など商機に

第一貨物(本社・山形市、米田総一郎社長)は飛躍的な業容拡大への一手として、本格的な倉庫営業に踏み込む。トラックドライバー不足に伴う2024年問題を受けて高まる在庫見直しなど、変化する荷主の物流ニーズを取り込む。昨年度後半には、北海道と首都圏で相次ぎ物流センターを開設。今年4月にはロジ事業本部を組織し、業容拡大の足掛かりとする。

22年11月〜23年2月にかけて、得意先の物流再編に伴う形で3センターを開設した。合計延べ床面積は約2万平方メートル。

22年11月に開設した札幌物流センター(札幌市)は、札幌貨物ターミナル駅構内DPL札幌レールゲートの2・3階の一部で、各階2区画、延べ床面積は約6600平方メートル。ドックレバラーを備える。

23年2月には、埼玉物流センター(埼玉県嵐山町)と千葉物流センター(千葉県八千代市)を同時開設。埼玉物流センターは、マルチテナント型物流施設の4階2区画、延べ床面積は約6600平方メートル。首都圏に加え、北関東へのアクセスにも優れる。千葉物流センターはマルチテナント型物流施設の2階1区画、延べ床面積は約6900平方メートル。45台コンテナセミトレーラーが接車可能。

3拠点いずれも屋内型トラックベース。LED(発光ダイオード)照明で、電気使用量は蛍光灯の約50%に抑えられる。

また、4月1日の組織改正では、営業本部を輸送事業本部とロジ事業本部の2本部制に再編。ロジ事業を、特積みをはじめとしたトラック系事業に並ぶ営業の柱とする位置付けを明確にした。

第一貨物が運営する物流センターは、新規3拠

点を含め全国35拠点に11表。同社のロジスティクス展開が中心だった。

(矢田 健一郎)

第一貨物が運営する物流センター

北海道	札幌Y物流センター(賃)	群馬県	前橋Y物流センター(賃)
	札幌物流センター(賃) ※		前橋物流センター(賃)
青森県	青森物流センター	埼玉県	熊谷物流センター
岩手県	盛岡Y物流センター(賃)		入間物流センター(賃)
宮城県	仙台Y物流センター(賃)	千葉県	大宮物流センター(賃)
	仙台物流センター		埼玉Y物流センター(賃) ※
山形県	しらかし物流センター(顧客)	東京都	埼玉物流センター(賃) ※
	東根物流センター		千葉Y物流センター(賃)
	寒河江物流センター	神奈川県	千葉物流センター(賃) ※
	でん六蔵王の森物流センター(顧客)		東京北物流センター(顧客)
	山形物流センター		厚木物流センター
福島県	山形流通物流センター	長野県	厚木第二支店
	山形物流センター		松本Y物流センター
	庄内物流センター	静岡県	静岡物流センター
米沢物流センター	マルサンアイ物流センター(顧客)		
茨城県	BLS物流センター(賃)	愛知県	エデュース関西物流センター(賃)
	郡山バレット物流センター(賃)		大阪府
栃木県	土浦物流センター	兵庫県	兵庫物流センター
	でん六関東物流センター(賃)		

注：(賃)は賃借物件、(顧客)は顧客物件、その他は自社物件  
※昨年11月〜今年2月に開設した3センター

ス事業は全売上高の2割弱を占め、業界に先駆け、極的な誘致を図るなど、改め倉庫営業を強化する。